

～みなさん「想い」を聞いてください～



周りを見渡すと田植えを終えた田んぼが目につきます。今年の早い梅雨入りのせいか、山をみると青々とした葉っぱで木々が色づいています。

一年前を振り返って思い出すのは、「ヤスデ」(一見ムカデに似た益虫)の出没です。2021年6月15日に1匹を発見し9月の初旬まで、ヤスデとの格闘でした。今年も覚悟をしつつ、「出来れば出てくるなよ」と願うばかりです。さあ、どうなることやら・・・みなさんのお宅はどうですか。

次回、必ず報告をします・・・



◆「原爆の絵」パネル展の開催 (荒川センター長)



「変わり果てた友人」作/松原未羽さん 所蔵/広島平和記念資料館  
6月

この度、下記の日程で「原爆の絵」パネル展を開催します。

2020年、広島は被爆75年の節目を迎えました。75年前の惨劇に学び、平和な世界へという心・行動の原動力になればとの思いで、この展示を開催します。

展示の絵は、基町高校の生徒さんが、被爆体験者の証言を聞き取りながら、「原爆の絵」を共同制作されたものです。

原爆がもたらした悲惨さ、そして被爆体験証言者と生徒さんたちの平和への思いを、多くの皆様にご覧いただければと思います。

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

開催時間と休館日について

8時30分～17時15分
8時30分～12時00分
13時00分～17時15分
※センター、休館日です。

○期間 6月14日(月)～6月30日(水)  
○場所 たかみや人権福祉センター

## ◆「語ることから、伝えていく」被爆体験書籍の紹介

2003年8月4日 高宮町原爆被爆者友の会（現在は、高宮原爆被爆者の会）、原爆被爆者体験記「被爆を生きて」を発行されました。みなさんに知ってほしい、読んでいただきたい、被爆体験記です。安芸高田市内の各図書館に置いてあります。ぜひご一読ください。



## ◆「世間の噂 当てにならない」要注意（八島指導員）

2003年の当センター資料をみていたら、懐かしい写真が目にとまりました。それは「ヒューマンワーク」です。行政職員がチームを組み地域に出向き、まちづくりと人権をテーマに「ヒューマンワーク」を行っていました。地域の生活・地域課題を住民と行政が共に汗を流し、知恵を出し合って解決し、住民の不安や心配事を少しでもなくし、「安心」して生活できる地域をつくる取り組みです。

当時私は、地元の羽佐竹と川根地域を担当していました。今も記憶に残っているのは、担当地区に出向き、自分の経験を踏まえて、体験談について話をしたことです。少しその内容を紹介します。

朝早くに、職場の同僚から電話が入りました。「おまえが人を殴ったと聞いたんじやが・・・ほんまか？」いきなりの言葉が、耳に飛び込んできました。私が、ある方を殴ったと言う「うわさ」を聞き心配し、たまげて電話を掛けてくれたのです。噂について心当たりを考えてみました。「あの時のことかなあ」と思い当たる事象はありましたが、けんかをしたり、ましてや人を殴ったと言う事実はなく、どうして、そのことが、噂として、「人を殴った」ことになったのか、まったくわかりませんでした。その同僚には、当時感謝の言葉を言ったと思いますが、記憶が定かではないので、改めて、「心配してくれてありがとう」と言いたいです。

この噂があった時期と、ヒューマンワークが重なり、自身の体験したことを皆さんの前で話しました。「噂は、ええかげんなもの、それに振り回されないよう注意をしましょう。」と話をしました。私の場合、若干「身から出たさび」的なところがありますが、明らかに、事実とは違うことが、人から人へと、伝わり「尾が付きヒシが付き」結果として、事実と反した話が「さもあったかのように信じられてしまう」このことは、大変恐ろしいことだと思います。得てして、自身もそれに加担してしまうことはありがちです。「ええかげんな噂話」にのって、それで「傷つく人がおる」その人へ思いを馳せることは必要です。もっと積極的な行動としては、そのような場に遭遇したら、「ええ加減なことはゆうまあやあ〜」の一言は大切です。

安心して住みやすい地域であるために、私自身出来ることに取り組みます。追伸、新たな社会問題、インターネットにおいても同じことが言えます。自身の不平不満のはげぐちにしないように、誹謗中傷に加担しないように。

発行:たかみや人権福祉センター 〒739-1802 安芸高田市高宮町佐々部 983-13  
電話・お太助フォン 57-1330